



病院長就任の御挨拶

同窓会の皆さん

放射線診断治療学講座 教授 村山 貞之

同窓会の皆さん、この4月から琉球大学医学部附属病院長を拝命しました村山です。琉球大学に放射線医学講座教授として赴任したのは1999年9月でしたので、11年半が経ちました。その間、大学病院は、独立法人化と初期研修必修化という大きな転機を迎えて、現在に至っています。私は、第三内科の瀧下先生、麻酔科の須加原先生が病院長のこの七年間の間、病院長補佐、学長補佐、副院長と、ずっと病院執行部として働いて来ましたので、病院のことがわかっている人の1人だと自負しています。この間大きく変化したことで、あまり皆さんが気付かれていない琉大病院のことを一つ書かせていただくと、病院の収益が30%も増収したことです。10年前はだいたい100億円の水揚げだったのが、昨年度は約130億円でした。これは、複合的な要素が絡み合っているのではありませんが、要は病院所属の皆さんが、必至になって頑張った結果だと思っております。同窓生の先生方も大勢琉大病院に勤めていらっしゃると思いますが、ご存じのように琉大病院の中堅として頑張っている方もたくさんいらっしゃいます。

さて、今年度から琉大病院の舵取りを任せられたわけですが、新年度の仕事としては、まずは、来年度当初開業の、県内の主要な臨床研修病院が参加するクリニカル・シミュレーションセンターの大学病院内設置があります。これは旧沖縄アジア研究センターの奥の職員駐車場に建設されます。シミュレーター人形を使った初歩的な静脈注射のトレーニングから、バーチャル救急センターによる実習など多彩な実習が可能なセンターで、第三

内科の大屋教授、新しい地域医療教育開発講座の山岡先生や阿部先生を中心にいかに素晴らしい実習センターにするか計画が練られています。また、放射線部のMR棟の裏にサイクロトロン・PET-CTによる機能画像診断センターの設置の工事も始まります。このセンターは、単なるFDGによるがんのPET診断だけではなく、現在有望視されている他の薬剤による画像診断を試みる事が可能な施設で、私の肝いりで実現する施設です。卒業生の皆さんにとって身近な話題としては、今まで手狭で不評であった卒後研修センターを新しい施設に移します。鉄骨2階建て施設で、外来入り口の右側奥の駐車場に建設され、10月には完成予定です。同時に血液浄化部も増床し、同じ施設に移します。また、新たな手術室の1室新設も現在検討中です。大動脈ステント治療に有効な血管造影室と手術室が合体した形の沖縄県では初のハイブリッド手術室も検討中です。このように、今年度は、琉大医学部キャンパスは工事ばかりで駐車場等のことで御迷惑をかけますが、それぞれの施設の完成を楽しみにして下さい。

最後に、病院長として同窓会の皆様にお願ひです。このように琉大病院は、大きく飛躍しようとしています。昨今は、卒業後母校との関係の薄い方も多くなってきたと思いますが、初期研修医、専門研修医として、琉大病院を選んでいただく方が多くなることを切に願ひしたいと思っています。将来の琉大病院を輝かしいものにできるかどうかは、同窓生の皆様の双肩にかかっていると思いますので、どうかよろしくお願いします。